

## 道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 27 年度 第 3 号 2016 年 1 月 22 日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

函館水産試験場 調査研究部

TEL : 0138-83-2893 FAX : 0138-83-2849

### 平成 27 年度道南太平洋スケトウダラ産卵来遊群分布調査（3 次調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2016 年 1 月 13～17 日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深 50～500m の海域

- ・ スケトウダラの海域平均反応量は、昨年同期を下回った。
- ・ 魚群反応の強い海域は苫小牧～鷓川沖。
- ・ 反応の比較的強い水深は 300m 付近（海底に張り付いた反応は水深 200～300m）。
- ・ 漁獲物の体長（尾叉長）は、45cm 前後が主体であった。
- ・ 漁獲物の成熟状態は、雌では完熟卵（水子）を持つ個体の割合が高かった。

1. スケトウダラとみられる魚群は、主に苫小牧沖から鷓川沖にかけて分布していました。その中でも、胆振海域の 172、176 海区付近に強い反応がみられました（図 1・2）。
2. 海域平均の反応量は、前年度を下回り、3 次調査が開始された 2004 年度（調査は 2005 年 1 月）以降では最も低い値となりました（図 3）。ただし、近年（2013 年度以降）は、苫小牧沖から東側の海域に強い反応がみられることから、産卵が終わったスケトウダラが調査海域外にすでに移動してしまっていることも推測され、そのために反応量が低くなっている可能性があります。
3. 魚群反応は、水深 100～500m の広い範囲で観察されました。特に水深 300m 付近に比較的強い反応がみられましたが、海底に張り付いた反応は水深 200～300m にかけてが中心となりました（図 2・4）。
4. 苫小牧沖で行ったトロール調査の結果、漁獲物は尾叉長 45cm 前後の成魚が主体となりました（図 5）。漁獲物の成熟状態は、雌では完熟卵（水子混じり）を持った個体の割合が高く（図 6）、産卵（または放精）後の個体の割合は、雌、雄ともに前年度調査の割合を上回っていました。

今年度のスケトウダラニュースは本号で終了となります。

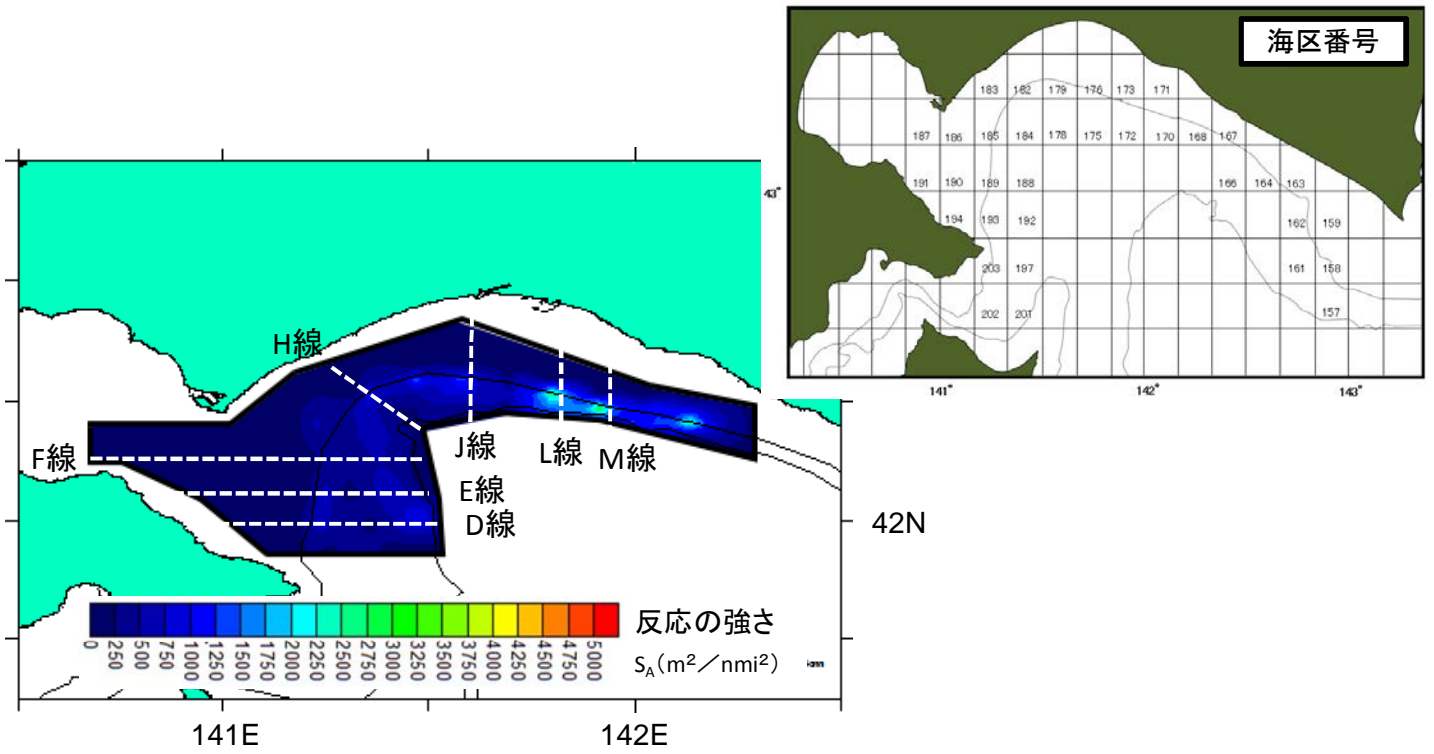


図1 調査海域における魚群の分布

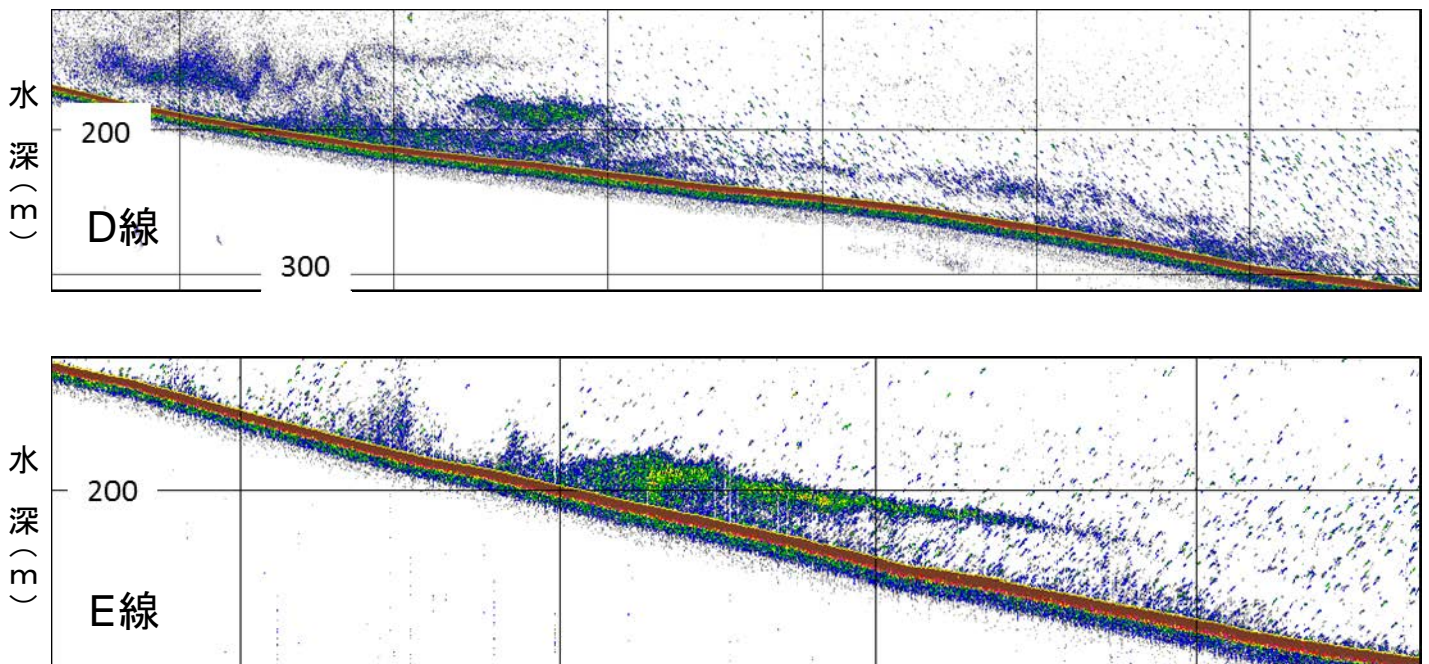


図2-1 魚群の分布状況(計量魚探画像)  
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

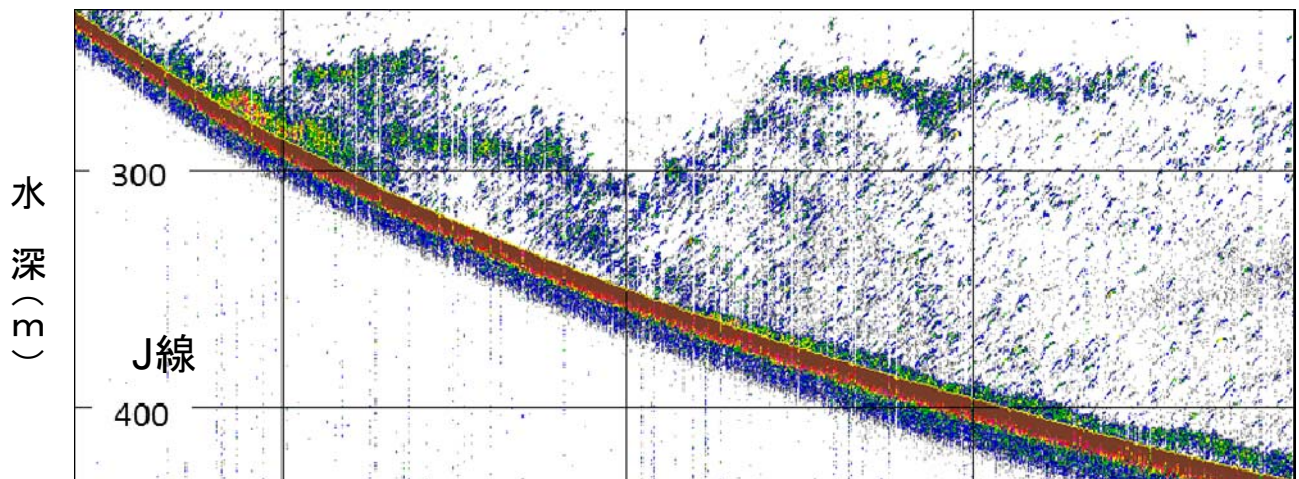
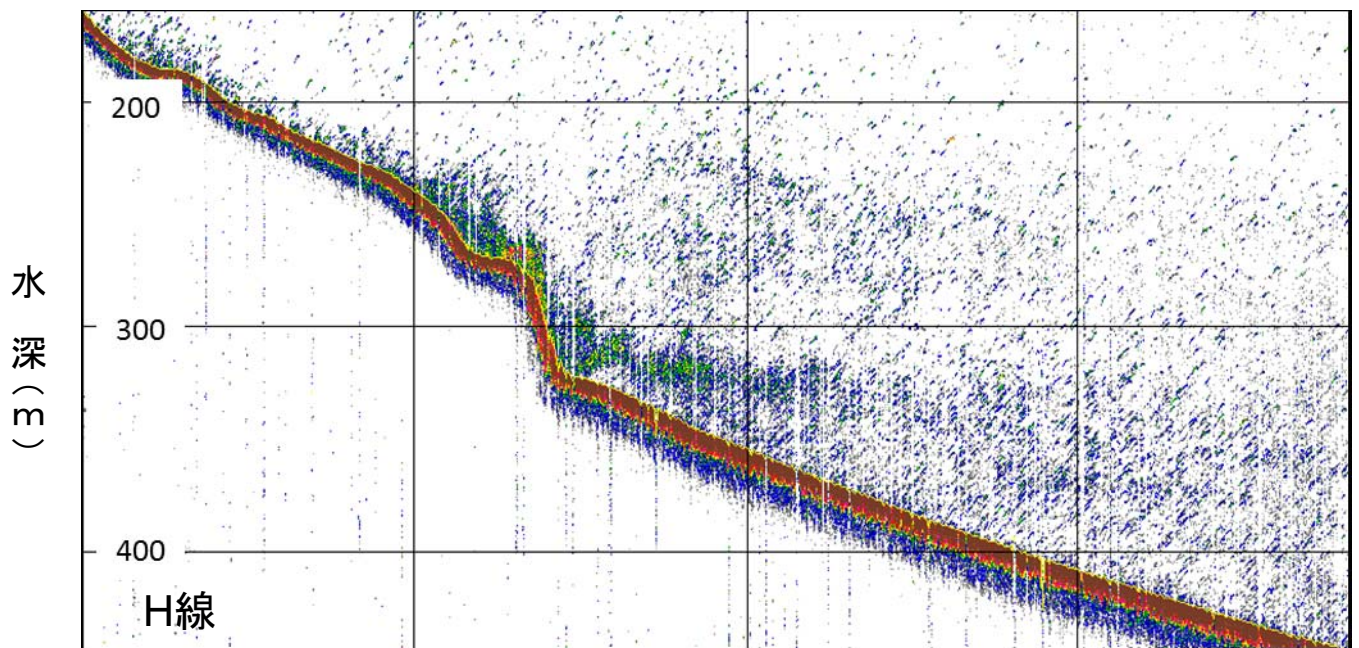
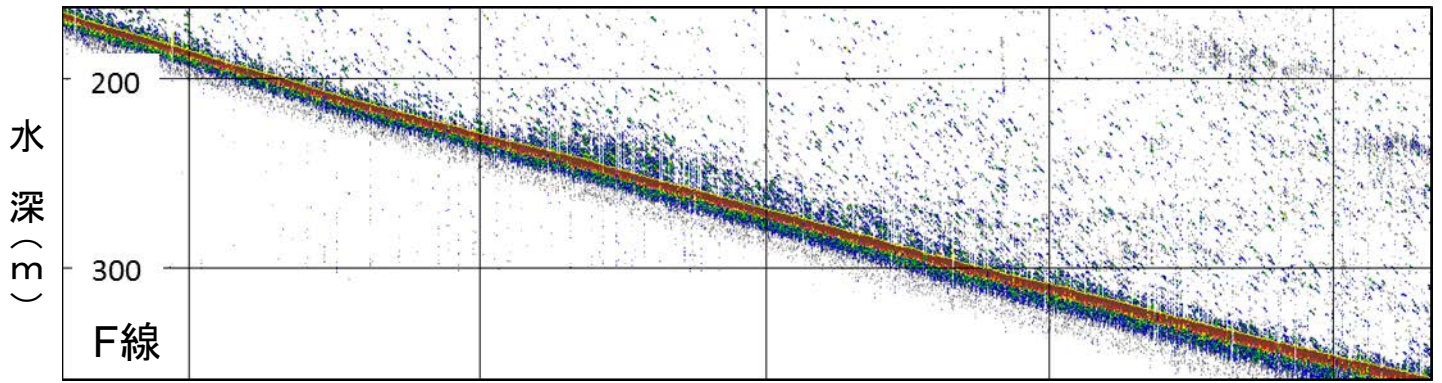


図2-2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき  
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

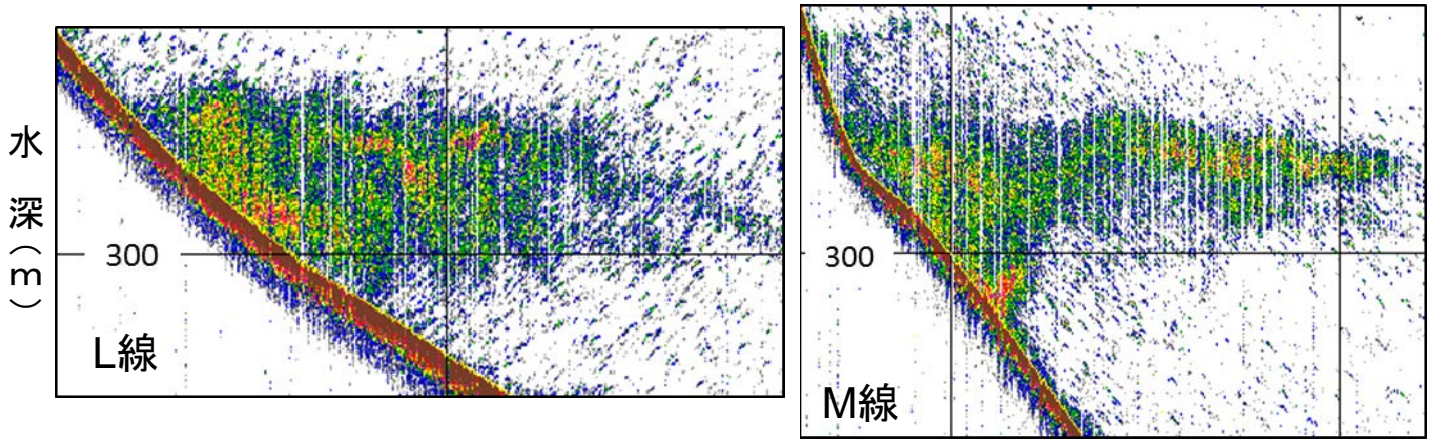


図2-3 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき  
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

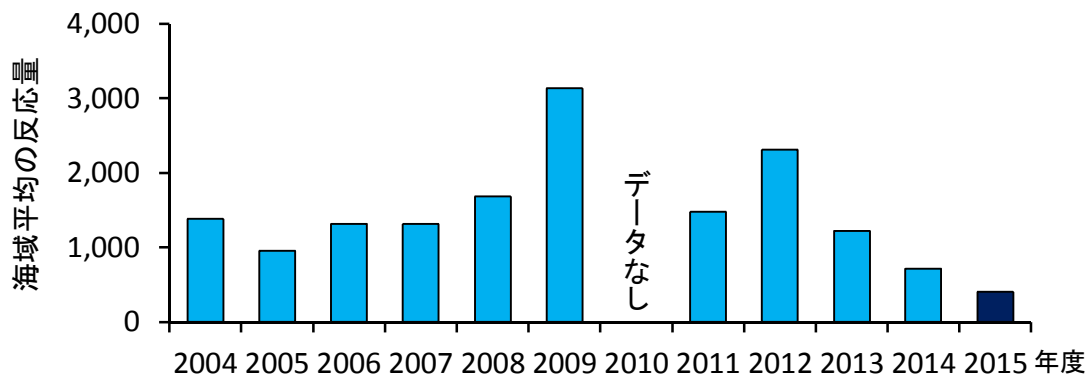


図3 調査海域における魚探反応量の推移

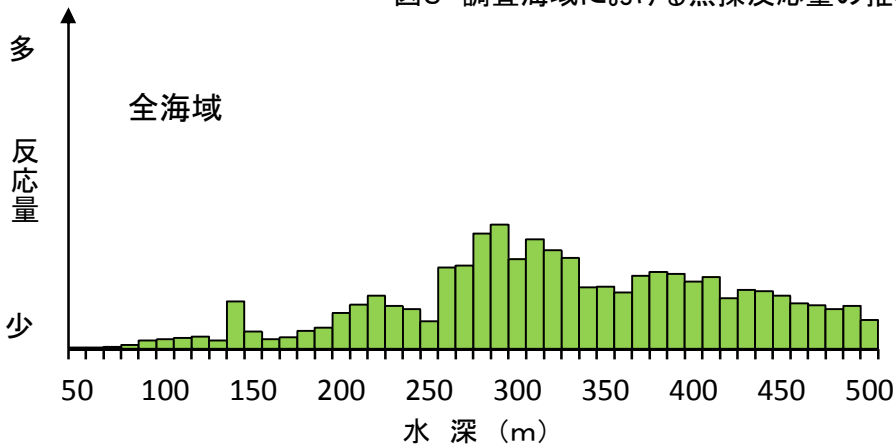


図4 水深別の魚探反応量

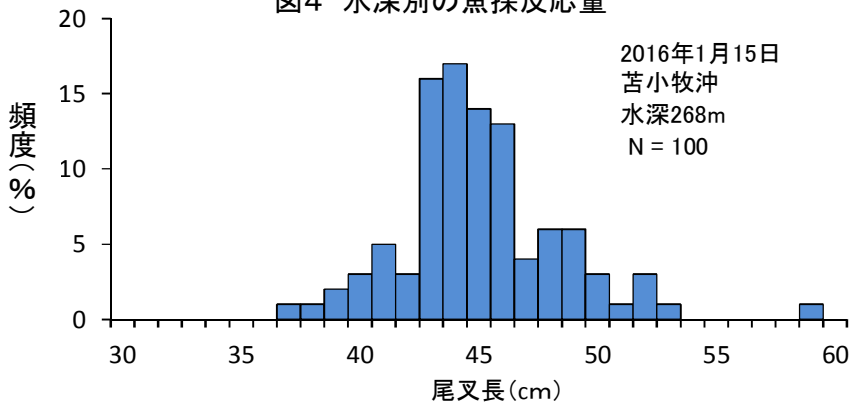


図5 漁獲物の体長組成

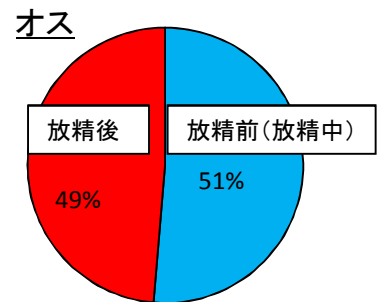
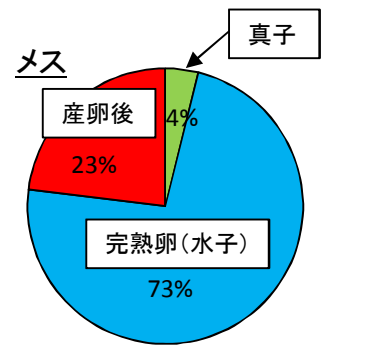


図6 漁獲物の成熟状態